

平成 23 年 3 月 31 日

財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 金岡純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名：富山大学	助成金額：300千円	
研究代表者：横山天心	所属：芸術文化学部	職位：講師
研究題目：砺波平野の散居村の景観保持に関する基礎的研究-伝統的民家の空き家調査とその現状調査-		

【研究概要】

1. 目的 日本で最大の規模である砺波平野の散居村においても、近年、後継者の不足から空き家が目立ち始め、景観が徐々に損なわれている。特にカイニョ（防風林）を有するアズマダチの伝統的民家の居住空間は、現代のライフスタイルにそぐわないことから、その傾向が顕著である。そこで、本研究は、美しい散居村の景観保持に関する基礎的研究として、砺波平野における散居村の空き家の分布及び現状を調査することを目的とする。

2. 調査方針の変更 本研究は本来、砺波平野の散居村の風景を形成する伝統的民家の空き家を調査することを目的としていたが、砺波市役所との協議の結果、以下の3つの理由で砺波平野の伝統的民家全般の分布調査へと方針を変更することとなった。

- ①砺波市と同市の民間支援団体「土蔵の会」が各町内会の協力を得て平成22年4月から先行して空き家調査を行っており、さらに空き家の持ち主への意向調査も市と同団体が平成23年度に行う予定であるため
- ②独自に空き家調査及び今後の利用意向調査を行うことは対象住民に二重の負担をかけてしまうため
- ③空き家の情報は個人情報であり、その調査データの取り扱いが困難であるため。

3. 調査方法 散居村ミュージアムの竣工（平成18年6月）に合わせて行われたカイニョを有する民家の調査データをもとに、砺波市の民家（2133戸）を住宅地図にプロットし、その民家の現状を調査した。

【成果要約】

砺波市のカイニョを有する民家全てを住宅地図にプロットし、そのうちの一部について現状調査を行った。現状調査により、今のところ50戸程度の空き家らしい民家が確認された。今後は、市と土蔵の会でまとめられた資料をもとに空き家を住宅地図にプロットし、その全体分布を把握する。さらに、その中から実測調査に協力してもらえる空き家民家を募り、その有効活用方法について学生と住民が活発に意見交換できるワークショップを行っていきたい。